

带状疱疹後の痛みでお悩みの方へ

带状疱疹は、発疹とともに強い痛みを伴う病気です。皮膚症状が治った後も痛みが続くことがあります、これを带状疱疹後神経痛（PHN）といいます。特に50歳以上では、約2割の方にみられるとされています。日常生活に支障をきたすことも少なくありません。当科では、内服薬で改善しない痛みに対して、神経ブロックなどの専門的治療を行っています。発症から時間が経過した痛みにも対応可能です。まずはご相談ください。

带状疱疹とは

体の片側にピリピリとした痛みが現れ、その後に水ぶくれを伴う発疹が出る病気です。日本人の90%以上が原因ウイルスを体内に保有しており、80歳までに3人に1人が発症するといわれています。免疫力が低下すると再発することがあります。

合併症・後遺症

顔や頭に発症すると、めまい・耳鳴り・視力低下・顔面の痛みなどの後遺症が残ることがあります。また、皮膚が治った後も痛みが続く状態を带状疱疹後神経痛（PHN）といいます。

治療

小林病院

- 1 顔面末梢神経ブロック
- 2 星状神経節ブロック
- 3 硬膜外ブロック
- 4 神経根ブロック

菅整形外科病院

- 1 各種神経ブロック
- 2 パルス高周波療法
- 3 脊髄刺激療法（SCS）

内服薬で改善しない場合はご相談ください。

受診・予約

小林病院 TEL：095-824-3545

菅整形外科病院 ペインクリニック科 TEL：0957-23-2388